

2021年
10～12月期

廿日市市景況調査

Economic survey

全国の景況：日本商工会議所

全産業合計の業況DIは、▲15.8（前月比+5.3ポイント）。日常生活の回復に伴う外出機会の増加や、一部自治体による需要喚起策の効果により客足が増える飲食・宿泊業を中心としたサービス業の回復が続くほか、小売業では衣料品の需要に持ち直しの動きがみられる。一方、製造業を中心に依然として幅広い業種で、部品供給制約による納品遅れ、原油価格を含む資源価格や鉄鋼などの原材料費の上昇などのコスト増加が続いている。加えて、活動正常化に伴う人手不足も発生しており、中小企業の景況感は回復基調が続くものの、力強さを欠いている。

廿日市の景況：廿日市商工会議所

※旧廿日市市(合併後の区域)の調査結果

全産業合計の業況DIは▲14.3と前回調査（7～9月）からマイナス幅が広がる。産業別では、卸小売業が前回値（▲25.0）から今回値（▲83.3）とマイナス幅が58.3と大きく、製造業は前回値（14.3）から今回値（8.3）、飲食・サービス業では、前回値（7.7）から今回値（▲14.3）、建設業は前回値・今回値とも33.3と横這い、全体的に減少している。令和4年1～3月の先行き業況は▲5.7（前回値▲2.5）と減少傾向である。

全業種にて仕入価格・燃料費・電力料金が上昇しているが、消費者の生活防衛意識や取引先との関係の懸念から価格転嫁が難しい。また、引き続き人材の確保が課題であり、来春の新卒採用を希望するが出来ていない業種もある。先行きも不足が続く見込み。

以下、産業別の各事業所から寄せられた景気動向の要因や今後の課題や重点事項など

【製造業】	<ul style="list-style-type: none">・ポリエチレン部門の全体的な需要減と原材料価格の高止まり（樹脂製品製造業）・コロナの影響が続いている（印刷業）・新規設備が9月に稼働し、景況が好転している（木製品製造業）・新規採用を見送り、既存スタッフで対応することで前年の人件費を下回った分、営業利益は改善しつつある（菓子製造業）・トラック本体（シャーシ）の入荷が悪化。そのため生産計画が立てられない（木製品製造業）・原材料費の上昇は認められるが、景況はあまり変化なし（食料品製造業）・展示会が実施されるようになった。新製品の投入ができた（建設工具製造業）
【建設業】	<ul style="list-style-type: none">・政府のIT化施策により好転（建設工事業）
【卸小売業】	<ul style="list-style-type: none">・売上等はそこまで変わらないが、燃料高騰により利益を圧迫している（建築資材卸売業）・建築部門で3～4ヶ月コロナで稼働できなかった影響により悪化（小売業）・いつまでも人の動きが悪く、段々と引きこもり生活に慣れていくように見える。活発な動きが出ないと売り上げ増は見込めない（コンビニエンスストア）
【サービス業】	<ul style="list-style-type: none">・コロナの影響をまだ受けており、見通しは希望的観測。昨年よりは好転するのではないかと（ホテル・飲食業）・同業他社と入札競争の激化、材料の高騰もあり価格転嫁できず粗利率が低下している（広告制作業）・好転に向けガマンを重ねてきた教訓を生かし、一步一步前進していくのみ（保険代理業）・飲食店来店客の減少で物量減少、燃料費のアップ（陸上貨物運送業）

業種別景況 概要	全国(12月)		廿日市 10~12月と先行き見通し									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲8.2	▲14.9	▲14.3	▲14.3	25.0	▲25.0	0.0	33.3	▲66.7	▲33.3	▲28.6	▲7.1
仕入価格	▲57.3	▲54.2	66.7	64.7	75.0	83.3	33.3	66.7	66.7	50.0	66.7	53.8
採算	▲19.5	▲23.2	22.9	11.4	41.7	25.0	66.7	66.7	16.7	▲16.7	0.0	0.0
雇用人員	17.7	18.6	▲26.5	▲41.2	▲16.7	▲16.7	▲66.7	▲100	▲16.7	▲33.3	▲30.8	▲53.8
業況	▲15.8	▲18.0	▲14.3	▲5.7	8.3	0.0	33.3	33.3	▲83.3	▲50.0	▲14.3	0.0

※ 全国調査は【日本商工会議所 LOBO 調査】をご参照ください

(対象 65 社 回答 35 社)

●DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断状況を表す。ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上など実数値の上昇や下降を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

採算・業況：(好転) - (悪化) 収入・売上：(増加) - (減少)
仕入価格：(上昇) - (下降) 雇用人員：(過剰) - (不足)

DI値 数値の目安

特に好調	$50 \leq DI$
好調（上昇・過剰）	$25 \leq DI < 50$
まあまあ	$0 \leq DI < 25$
不振（下降・不足）	$\blacktriangle 25 \leq DI < 0$
きわめて不振	$DI < \blacktriangle 25$

■設備投資は？

回答 35 社中

10~12月			R4.1~3月 見込み
実施 した	土地	0	0
	建物	3	1
	機械	7	7
	車両	7	4
	IT機器	5	3
	その他	2	0
	計	24	24
実施していない・しない		17	24

■当面の問題点は？

※回答のその他はランク外扱い

第1位	材料費や仕入価格が上昇	19.1%
第2位	売上、需要が増えない	13.6%
第2位	従業員や人材の確保が難しい	13.6%
第4位	新型コロナの影響がある	12.7%
第5位	人件費が増加している	9.1%

景況DIの推移

